

「研究テーマ」

新聞を活用した思考、判断の力、表現の力の育成

～新聞に親しみ、新聞に学ぶ児童をめざして～

加東市立鴨川小学校 校長 岡 敏久
教諭 藤原 達矢

1. はじめに

本校では、本年度（平成25年度）より初めてNIEの実践校指定を受け、1年間取り組むこととなった。

そこで、まず子どもたちが新聞をどのように活用しているか振り返ってみた。本校では、以前より職員閲覧用に神戸新聞を購読しているほか、児童用に毎日小学生新聞を購読していた。しかし、有効に活用されることはあまりなかった。また、児童の話の聞いていると、新聞を購読していない家庭もあった。つまり、児童は新聞とほとんど関わることなく過ごしている現状であった。

そこで、本年度NIEに取り組む初年度として、新聞に親しみ、新聞から学ぶ児童を育てることを目標に設定した。

2. 取り組みの実際

新聞に親しむ児童を育てるためには、まず新聞を読める環境の整備、次に、新聞を読む機会を設けることが必要だと考えた。さらに、各教科、領域における学習のまとめ活動において「新聞づくり」に取り組むことで、より一層新聞に親しめるのではないかと考えた。

そこで、今年度は（1）環境整備、（2）新聞を読む機会の提示、（3）新聞づくりの3つの取り組みを行った。

（1）環境整備

先述のように本校では児童用として毎日小学生新聞を購読しており、広報委員会の児童が廊下に掲示をしていた。しかし、その新聞を児童が読んでいる様子はほとんど見られることはなかった。これは、新聞を掲示していた場所が階段の壁面であり、重い金具がつけられていたため読みにくかったからではないかと考えた。そこで、誰でも読めるような新聞コーナーを新たに設置することにした。

新聞購読は5月から始め、8月を除き9月まで読売、日経と朝日小学生新聞を、10月から翌年1月まで産経、神戸と毎日小学生新聞を、このコーナーに置いた。おかげで、ほぼ全学期を通じて「新聞が読める状態」が維持できた。

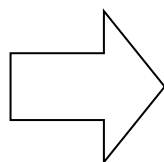
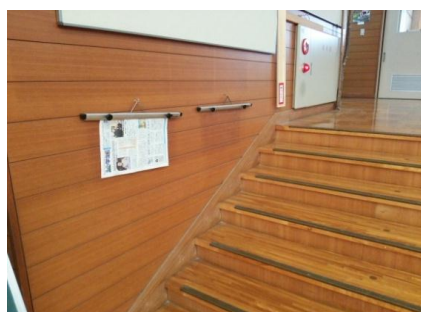
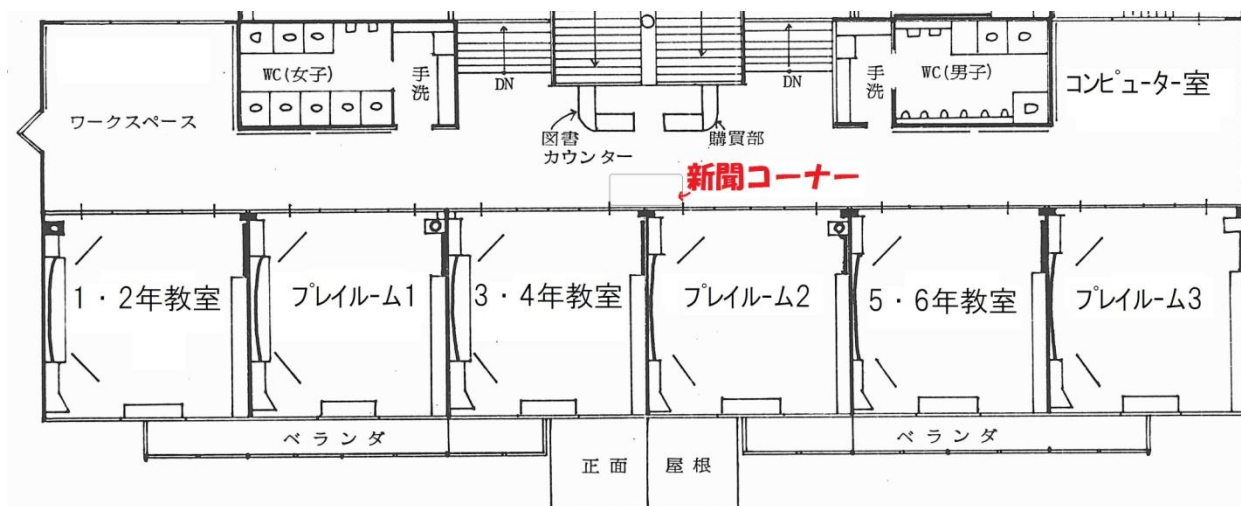
新聞コーナーを設置するにあたって以下の2点を考えた。

①全学年が見やすい位置と高さ

②バックナンバーの設置

本校は6学年で合計3学級あり、すべての教室が2階に並んでいる。そこで、2階の中央に配置することにした。この場所であれば、全学年が目にしやすと考えたからである。また、低学年でも記事が見やすいように60cm程度の高さの給食台の上に展示した。

使用していなかった給食台の上段に最新号を並べ、下段には月ごとにまとめたバックナンバーを並べた。



(2) 新聞を読む機会の提示

新聞をただ置いておくだけでは子どもたちはあまり読もうとしなかった。おそらく、新聞に対する抵抗感があるのであろう。そこで、抵抗感を取り除くための活動を、実践代表者が担任する3・4年生を対象に計画した。

1) 新聞について話をしよう

まずは、教師が朝の会で新聞記事から話をすることにした。できるだけ子どもたちの関心に沿った記事を選び、実物投影機で大きく映して話し、気づきや感想を交流した。新聞を見ていなくても「ニュースで見ました」「お父さんが言っていました」というように知っていることを発表したり、自分の周りでのよく似た出来事を話し合ったりして、会話の膨らみを楽しむことができた。

また、同時に見出しや小見出し、本文のつながり方、写真の説明など、新聞

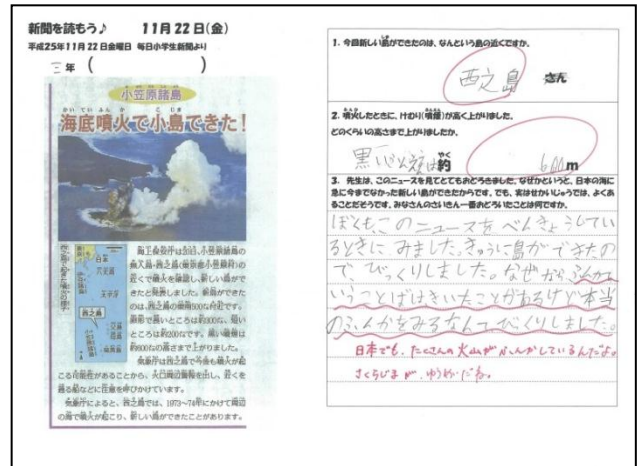
の構造と読み方について学習を進めた。

2) 新聞を読んでみよう「朝N I E」

少しずつ新聞に慣れてきたところで他校でも実践されているものを参考にして、自分自身で読む活動「朝N I E」に取り組んだ。

「記事を読み、3つの設問に答える」という15～20分程度で取り組めるような内容にした。3つの設問のうち2つは記事から

ニュースの趣旨を読み取って答えるもの、もう1つはその記事から話を広げ、自分の身の回りでの出来事について答えるようにした。例えば、スキー場がオープンしたニュースを読んだときには、「この冬休みに、楽しみにしていることは何ですか」というような質問を行った。



(3) 新聞づくり

1) 4年生 国語

4年生国語では、自分の関心のあることを本やインターネットを使って調べ、まとめる単元「だれもがかかわり合えるように」がある。その単元のまとめとして、新聞づくりを行った。その際、新聞名、見出し、小見出しを意識させて書かせた。新聞の様式にまとめさせるために、2単位時間を使った。

2) 3・4年生 理科

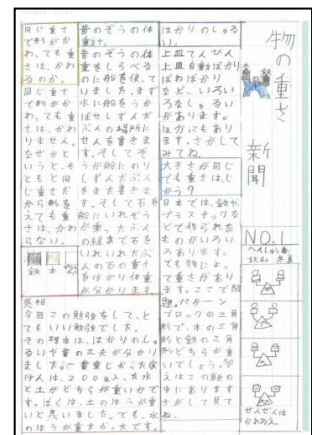
理科では、各単元で学習したことを自分なりに振り返ってまとめさせた。その際に、様式は自由としたが、新聞の見出し、小見出し、配置などを意識して書くようにした。それぞれに挿絵を用いながら約2単位、時間を使ってまとめることができた。

3) 3・4年生 総合的な学習の時間

本校では、全校的に地域資産を学ぶ「ふるさと学習」という活動に取り組んでいる。昨年度は、各学級単位で「黒豆」について学んだ。3・4年生では、黒豆の育て方について調べたり、地域の方にインタビューをしたりしたことを壁新聞にまとめて発表を行った。



朝N I Eに取り組む様子



4) 3年生 社会科

3年生の社会科では地域で働く方にインタビューして分かったことを新聞の様式にまとめた。その際、新聞制作用ソフト「朝刊太郎」を活用してまとめさせた。3年生の児童はパソコンのローマ字入力に慣れていなかったため、かなりの時間を要したが、右写真のように新聞らしい作品に仕上げることができた。



3. 成果と課題

(1) 成果

新聞に親しみ、新聞から学ぶ児童を育てようと今年度1年間取り組んできた結果、登校してからの朝の時間や休み時間に廊下で新聞を読む児童の姿が見られるようになった。とくに、高学年児童は新聞を囲んで記事について話し合う姿があったり、中学年児童は担任に「先生、このニュース知ってる？」と新聞を片手に語りかけてくる姿が見られたりした。確実に本校の児童の中で新聞に対する抵抗がなくなっている。

また、まとめの活動に新聞の様式を活用したことで、表現の仕方の一つとして「新聞にまとめる」という方法が児童の中に確立されてきた。

(2) 課題

今年度は中学年を対象にして行ったため、中学年の児童でも新聞を読み、内容をある程度理解できることが分かった。しかし、低学年では、どのような取り組みが可能なのか、今後の検討が必要である。

また、本年度、実践者が行ってきたような活動を全校に広めたり、継続して行えるような取り組みにしたりしていくための手立てを考える必要がある。



4. おわりに

N I Eに取り組む実践代表を受け持つと同時に、情報教育の担当をさせていただいていた。最近では、情報教育というとインターネットを介した情報に重きが置かれているように感じることも多々ある。しかし、情報を得る手段にはインターネットだけでなく、書籍、テレビ、ラジオ、そして新聞があるということをもう一度見直し、これからの実践につなげていきたいと思う。